

主審を行う生徒の皆さんへ

主審を行っている、多々混乱等も生じることもあるかと思いますが、皆さんの柔軟かつ臨機応変な対応力でカバーしてください。そのための要点を以下にまとめましたのでご確認ください。

【全般的事項】

- 各試合（マッチ）のインターバルは次の通りです。
 - すべてのゲーム中、一方のサイドのスコアが11点になった時、60秒を超えないインターバルを認めます。
残り20秒でコールします。（選手は20秒前にはコートに入ること）
 - 第1ゲームと第2ゲームの間、第2ゲームと第3ゲームの間に120秒を超えないインターバルを認めます。
残り20秒でコールします。（選手は20秒前にはコートに入ること）
- インターバル中のアドバイスは、監督・コーチなど同時に2人までです。主審の「(コート番号)20秒」のコールで、コートから離れてください。**なお、会場によってはコーチングシートを設けます。**
- 個人対戦シングルスにおいて、試合開始前の練習（2分以内）をする相手は対戦相手とします。
- 試合（マッチ）中の水分補給、汗ふきなどは必ず主審の許可を必要とします。
- サービスのセンターラインのイン・アウト**、サービスの遅延行為に関しての判定は主審が行います。
- 次のような違反行為に対しては厳正に対処をします。（競技規則第16条）
 - 息切れなど体力回復の遅延に関わる行為、又は、アドバイスを受けるためにプレーを遅らせる行為。
 - 故意にシャトルに手を加えたり破損したりする行為。
 - 審判員や観客に対しての横柄な振舞い、下品で無礼な態度、言動。
 - 見苦しい着衣でプレーをする。
 - ラケットや身体でネットなどのコート施設を叩いたり、耳障りなかけ声や奇声を発するなどの不品行な振舞い。
- 競技中は、必ず高等学校名・都道府県名の入ったシャツを**着用しているか、ゼッケンを付けているかを確認してください。**
（背面の文字は明確に判読できるもの）
- 競技中の怪我や病気については、主審が判断します。もし必要ならレフェリーを呼び、レフェリーの判断に従うことになります。
- 審判の判定に「抗議」や「異議」を唱えることは一切認められません。もし判定に対して疑問がある場合には、次のサービスが為される前に「質問」をすることができます。ここで質問ができる者とは、学校対抗では当該選手と監督、個人対抗では当該選手に限ります。

主審への注意・審判上の留意事項

審判員は、「競技規則」、「大会運営規程」及び「公認審判員規程」に精通し、試合においては、自覚と責任を持って真摯に取り組んでください。

審判員の判定は、その審判員の責任とするすべての事実に関して最終のものであるので厳正に判定を行ってください。また、全てのコール及びアナウンスは、プレーヤーにも観衆にもはっきりと聞こえるように明確に行ってください。

【主 審】

- 『試合開始前』
 - 公式練習は、挨拶、トスが終わった後に行い、その時間を計測する。
（練習時間は試合ごとに同時に2分間。ただし、個人対抗単では対戦相手と練習する。）
 - 「ラブ オール、プレー」の時刻をスコアシートの開始時刻の欄に記入する。
 - 正しくスコアシートを記載する。またマッチで使用したシャトルの個数も記録する。
 - ゲーム開始時やゲーム中、得点表示器の得点が正しいか、また正しいサイドを示しているか時折チェックする。
- 『試合中』
 - コールは必要最小限として、正しい審判用語を使用する。（「ポイント」のコールはしない）
 - 判定は迅速かつ厳正に行うが、間違ったときはそれを認め、謝り訂正する。
 - 他の審判員の立場を尊重し、信頼関係を確立する。線審の判定は、アイコンタクトで毎回必ず確認する。
 - 審判員の判定に「疑問」があるときは、学校対抗戦では、当該プレーヤーと監督のみ、個人対抗戦では当該プレーヤーのみの「質問」は受けるが、「抗議」や「異議」は受け付けない。
 - 必要に応じて、シャトルの交換を許可する。

- (6) 試合中に、シャトルが不足した場合は、線審にお願いし、本部席にシャトルを取りに行ってもらおう。
- (7) サービスコートの間違ってスタートしたラリーは止めることができない。間違ったラリーの点数もそのまま加算され、サービスコートの間違いだけを直す。
- (8) インプレーで、シャトルがラケットに接触して、相手プレーヤーサイドに向かわなかったときはフォルトとする（フォルトとコールする）。
- (9) 競技規則に違反しているかどうか分からなかった場合、「フォルト」をコールせずに、そのままゲームを続行させる。
- (10) すべてのゲーム中に一方のサイドのスコアが11点になったと同時に、インターバル60秒間の計測を始める。
 - ① ファイナルゲーム中のインターバルのみチェンジエンズが行われる。
チェンジエンズは、「インターバル」のコールの後、速やかに行わせる。
 - ② インターバルでは、どちらのサイドも2人まで競技区域に入ってきてもよい。
これはエンドを替えた後に入り、主審が、「(コート番号)20秒」とコールしたら、コートから離れるものとする。
 - ③ 11点のときにゲームを再開する際は、スコアをコールした後に「プレー」とコールする。
- (11) 各ゲームの間のインターバルは、第1・第2ゲーム終了の「ゲーム」をコールすると同時に、インターバル120秒間の計測を始める。
 - ① インターバルでは、どちらのサイドも2人まで競技区域に入ってきてもよい。
これはエンドを替えた後に入り、主審が、「(コート番号)20秒」とコールしたら、コートから離れるものとする。
 - ② 残り時間のコールは、「○コート20秒」(2回繰り返す)のみとする。
- (12) 汗拭き・給水については、主審の判断で許可する。なお、休息をとるための行為等がある場合は止めさせる。(競技規則第16条の違反を適用する。)
- (13) インプレー中にコート外から助言を受けることや、インターバルを除き主審の許可なくコートを離れないよう注意する。(ラケット交換・靴紐の締めかえなど)
- (14) ケガや病気の場合には、慎重かつ適切に処理する。
【試合中の怪我・事故などの取り扱いについて】参照
※ 緊急に医師等による治療が必要な重大なケガや事故が発生した場合は、速やかにレフェリーを呼び、その内容を報告し、指示を仰ぐこと。なお、その際コートに入れるのは、レフェリーだけである。この間、インプレーでなくなった時からの経過時間を計測しておくこと。
- (15) 主審の判断で、線審が明らかに間違った判定をしたと確信した場合、主審は次のコールをする。
 - ① インのとき:「コレクションイン」
 - ② アウトのとき:「コレクションアウト」
- (16) コート整備が必要と判断したときは、最寄の線審に整備を指示する。

審判力向上のために ～より実力のある審判員を目指して～

試合の主審を行う場合は、単に「ラブオール、プレー」から21点(30点)までの点数を数えるだけではありません。その過程で起こる様々な問題に対し、速やかにかつ正しく冷静に判断していく能力が問われます。また、いろいろところで、主審に判断を委ねられる事例があります。

次に示すのは、試合中に主審の判断が必要な事例です。関東選抜大会を審判力向上のための舞台と考え、実践的な練習を積み審判力の向上をお願いします。

【主審の判断によるもの】

次のことは選手や監督の判断によるものではありません。自信を持って試合運営を行ってください。なお、競技区域外はレフェリーの管轄下ですから、その判断や指示に従ってください。

- 汗拭きの許可をどうするか。（水分補給を含む）

競技規則書には「プレーが中断しない範囲であれば、すばやいたオルの使用や給水が許可されることがある」とあるが、原則としてゲーム中の汗拭きは認めない。競技規則の「プレーの継続」と関連するが、休憩をとることは認められていない。極端に汗をかいている様子もなくゲームの流れを故意に変えるためであると判断されるようなときなどは、「プレーを続けてください」と選手にプレーの継続を促す。
- シャトルを交換すべきかどうか。
- サービス時に、サービスがなされる前にレシーバーの足が早く動いたかどうか。
- サービス時に、レシーバーが構えの態勢をとっていたかどうか。
- 選手が、サービスジャッジや線審に対して、暴言を吐いたかどうか。
- 選手が線審の判定直前に「アウト」「イン」などと、声やジェスチャー（シグナル）で線審を惑わしたかどうか。ダブルスで自分のパートナーに対して声を発するなど、関わる問題の有無についての判断は主審が行う。
- サーバー、レシーバーともにそれぞれの体勢に入るのが遅いかどうか。
- 監督・当該選手からの質問に対する対処ができるかどうか。場合によっては受け付けないことも可。
- 汗などで床やコートマットが濡れ、モップや雑巾などで拭いた方がよいかどうか。
- 線審の担当ライン以外は主審が見るが、線審の担当ラインにも注意して判断する。
- 線審がシャトルを見失い判定できなかつた場合は、主審が判定する。主審も判定できない場合はレットとする。
- 選手が怪我や事故などで、レフェリー（競技役員長）を呼ぶかどうか。または、そのまま続行させるべきかどうか（痙攣は基本的に続行）。
- インプレー中の助言があったか。また、応援の声と助言との区別は主審が判断する。
- インプレー中に、隣のコートからシャトルが入ってきたときの判断をどうするのか。
- インプレー中に、選手の足などがネットの下から出て、相手の選手を妨害したり注意をそらしたりしたかどうか。
- インプレー中に、選手のラケットがネットの上から出たかどうか。
- インプレー中に、選手のラケットや身体などにシャトルが触れたかどうか。
- 選手同士がならみ合ったり、拳を相手に振り上げたりしているかどうか。相手を威嚇したりする品行な行為と自分自身に対する所謂ガッツポーズかどうかの判断。
- ゲーム間（2分間）のインターバル残り20秒のコール終了後、次のゲームの「ラブオール、プレー」をいつコールするのか。
- 各ゲーム終了後の120秒のインターバルで、監督やコーチなどのアドバイスが、エンドをチェンジした後、新しいサイドで行われているかどうか。また、アドバイスは2名以内かなど、主審はインターバル中でもよく注意を払うことが求められる。
- プレーをレットにすべきかどうか。
- サービスコートの間違いがあった場合は「インプレーでなくなってから」すみやかに訂正する。

競技役員長（レフェリー）を呼ぶとき

- 選手が怪我をしたとき。（【試合中の怪我・事故などの取り扱いについて】参照）
- 選手が監督またはコーチからインプレー中にアドバイスを受けていると判断した場合。
- もし、主審が、コーチにより、プレーが混乱させられたり相手サイドのプレーヤーの注意がそらされたりしていると判断して「レット」をコールした場合。
- プレー中に選手から主審の判定に質問し、異議を唱えているとき。（必要な場合）
- コートの設定（ネット、ポスト、コート等）が破損を含め不備になったとき。
- 一つのサイドによる警告後の同種の違反行為によるフォルトのとき。
- インターバルで時間になっても戻ってこないとき。
- 応援席、観客席からのアドバイスや過激な応援等。

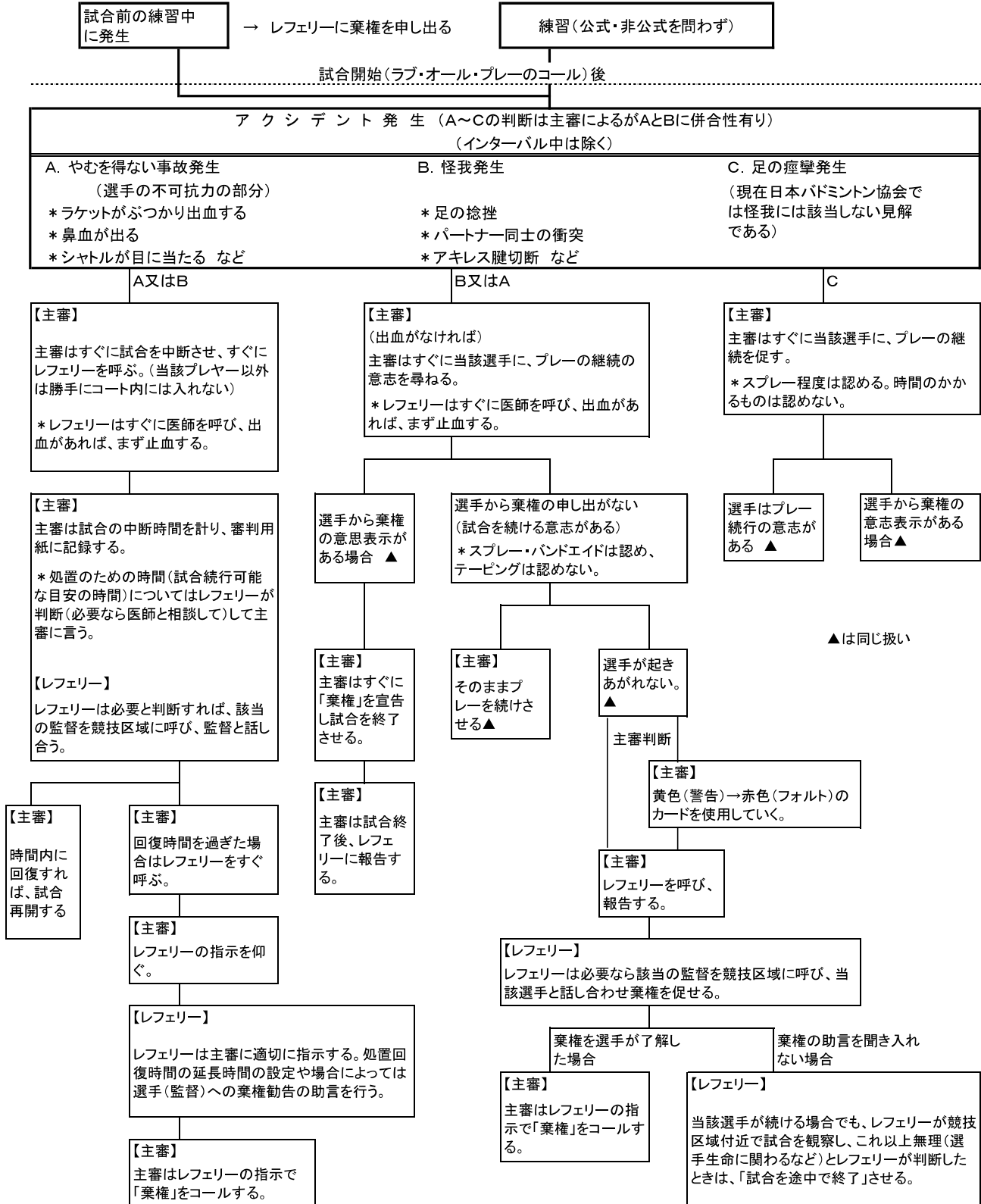
※レフェリーコールは右手を高く上げ、「レフェリー」に合図をしてください。

試合中の怪我・事故などの取り扱いについて

(公財)全国高体連バドミントン専門部

◎(公財)全国高体連バドミントン専門部及び(公財)日本バドミントン協会の主催する全ての第1種大会において、試合中に事故や怪我が発生した場合は、原則として次の手順で処置を行うものとします。なお、その他の処置の判断を必要とする場合は、(公財)日本バドミントン協会の競技規則・大会運営規程により、大会のレフェリーが判断(決定)する事になります。

【試合中の選手によるアクシデントの対処について】



【注意事項】 *レフェリーについては、ディピュティ・レフェリーが代わりに務めることができる。